

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【理科】

### 1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要）

児童生徒の多くは、授業に参加して新しい知識や技能を学びたいとの思いはあるものの、学習に前向きに取り組むことが難しく、学習や活動を回避してしまうことが多い。一方で、興味関心のある学習内容や、安心できる人や場所などの学習環境が整うことで、意欲的に学習に取り組むことができる。

本学習集団は男子二人で構成されている。理科では、復習を交えつつ、当該学年の学習を進めている。学習の流れを毎回同じにして見通しを持ちやすくしたり、繰り返しの活動を多く設定したりするようにしている。また、読み書きの量を精選するとともに、体験的な活動を多く設定することで意欲的に取り組むことができている。課題の内容はスモールステップにして確実に解答できるようにすることで、落ち着いて学習に取り組むことができている。学級内では短いやり取りではあるが、教師を介さずに二人で自分の思いや考えを話したり聞いたりしている。

### 2. 単元名「雨水のゆくえ」（全10時間）

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・ 水は、高いところから低いところに流れること、土の粒の大きさによって水のしみ込み方に違いがあること、空気中に蒸発していくことを知る。
思考力、判断力、表現力等	・ 雨水の行方と地面の様子について、観察や実験で得られた結果を基に、自分の考えを発表している。
学びに向かう力、人間性等	・ 雨水の行方や地面の様子と日常生活と関連させながら、意見を述べている。 ・ 自分から実験・観察に取り組んでいる。

### 4. 本時の目標

- ・ 雨水の行方についての仮説を立てることができる。（1/10）

### 5. 授業展開【 本時 】

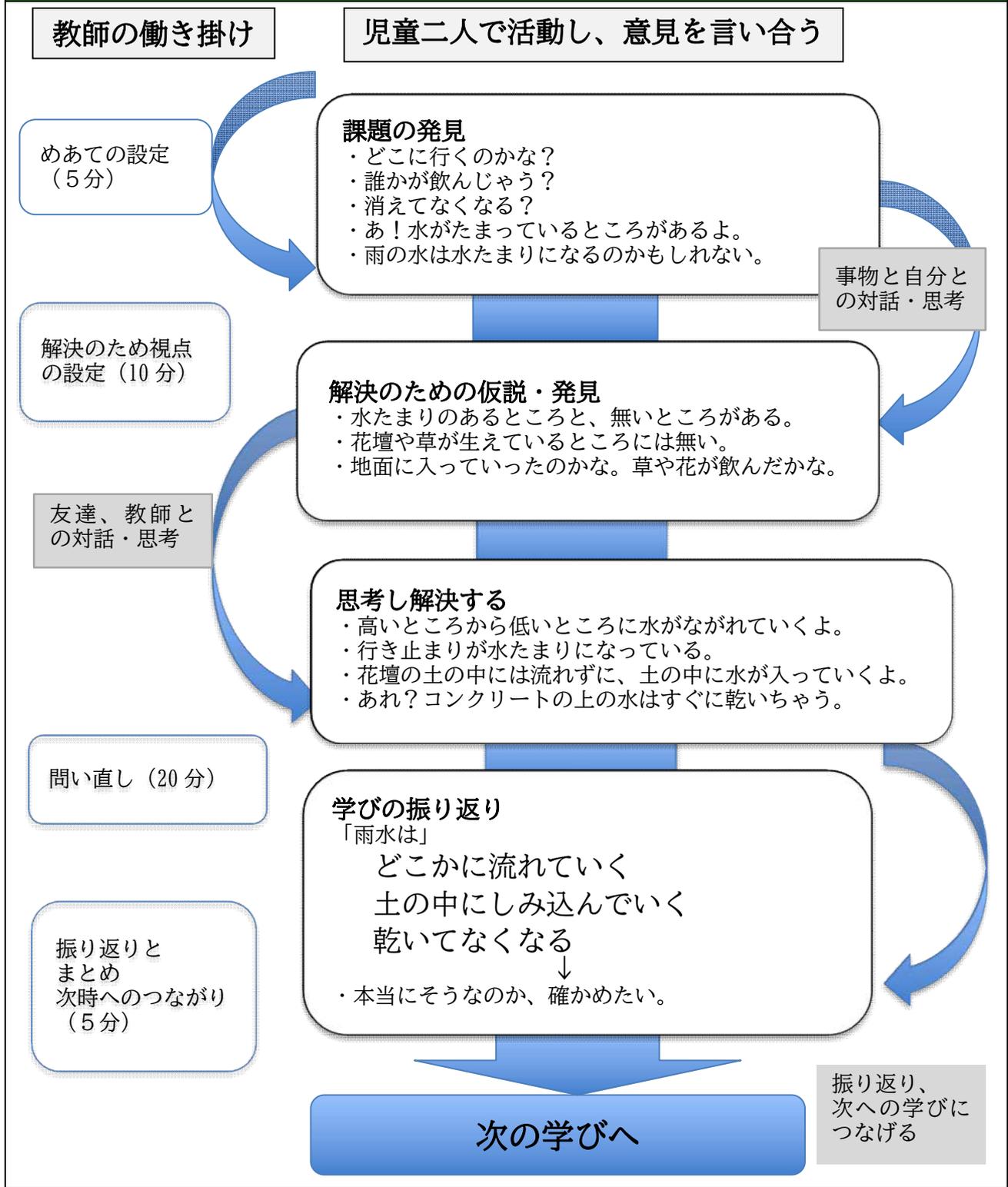
#### 解決したい課題や問い

- ・ 雨水は、空から降ってきて、いったいどこに行くのだろう。

#### 考えるための材料

材料 A	材料 B	材料 C	材料 D
・ 雨が降る前と雨上がりの校庭の様子を見比べる（晴れが続いている場合は映像で見る）。	・ 水たまりがあるところと無いところがあることを伝え、違いは何か探してみる。	・ じょうろの水を雨水に見立てて、校庭のいろいろなところに流してみる。	・ 材料 C について、気付いたことを、写真や動画で撮影する。
想定される活動	想定される活動	想定される活動	想定される活動
・ 地面がぬれていることや水たまりがあることなどに気付いて意見を言う。	・ 教師のヒントを手掛かりにして、あるところと無いところの違いに気付いて発表する。	・ 水が流れていくところがあることに気付く。 ・ 土に掛けた水が無くなることに気付く。	・ 一人が水を流す、もう一人が撮影する、のようにして二人で協力して実験、撮影を行う。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）



学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

雨水の行方について、校庭を観察した様子を基に

- 1 流れて水たまりができるよ。
- 2 土の中にしみ込んでいくよ。
- 3 乾いて無くなるよ。

という仮説を立てることができた（②思考・判断・表現）。